

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2156 号

Reliability and Validity of the Japanese Version of the Ocular Surface Disease Index for Dry Eye Disease

日本語版ドライアイ疾患特異的質問紙票 OSDI の妥当性と信頼性の検討

猪俣 明恵 (いのまた あきえ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

ドライアイは本邦で 2,000 万人以上が罹患するとされる最も多い眼疾患の 1 つである。ドライアイに罹患すると、眼不快感、眼乾燥感による視覚の低下や仕事や学業の作業効率低下による経済的損失が問題になっている。またドライアイは超高齢社会、デジタル作業の増加等により今後も増加が予想されている。ドライアイの診断基準は 2016 年に改訂され、自覚症状の有無と涙液層破壊時間の低下からなされることとなり、自覚症状は質問紙票による自覚症状の定量化が推奨された。これまで、本邦において世界的に使用されているドライアイ疾患特異的質問紙票 Ocular Surface Disease Index (OSDI) はその妥当性ならびに信頼性が確認されていなかった。そこで、本研究では、日本語版 OSDI (J-OSDI) を開発し、その信頼性と妥当性を検証した。

OSDI は日本語に翻訳され、文化的適合性が確認された。順天堂大学医学部附属順天堂医院において 209 名の患者を対象として、J-OSDI の内部一貫性、信頼性および妥当性の検討を行った。また、Receiver Operating Characteristic 解析を用いて J-OSDI のドライアイが疑われる最適なカットオフ値を評価した。研究参加者のうち、152 がドライアイであり 57 人が非ドライアイであった。J-OSDI total score は、良好な内部整合性 (Cronbach alpha = 0.884)、再検査信頼性 (クラス間相関係数 = 0.910)、および判別妥当性が確認された (非ドライアイ:  $19.4 \pm 16.0$ 、ドライアイ:  $37.7 \pm 22.2$ 、 $p < 0.001$ )。因子分析により、OSDI と同様に J-OSDI は 3 つのサブスケールに分けられることが確認された。ピアソン相関分析による基準関連妥当性は、J-OSDI total score は Dry Eye-Related Quality-of-Life Score と強い正の相関を示した ( $r = 0.829$ )。J-OSDI total score の最適なカットオフ値は 36.3 (Area Under the Curve = 0.744) だった。

J-OSDI は本邦におけるドライアイの自覚症状の評価とモニタリングのための効果的な質問紙票として、その信頼性と妥当性が確認された。